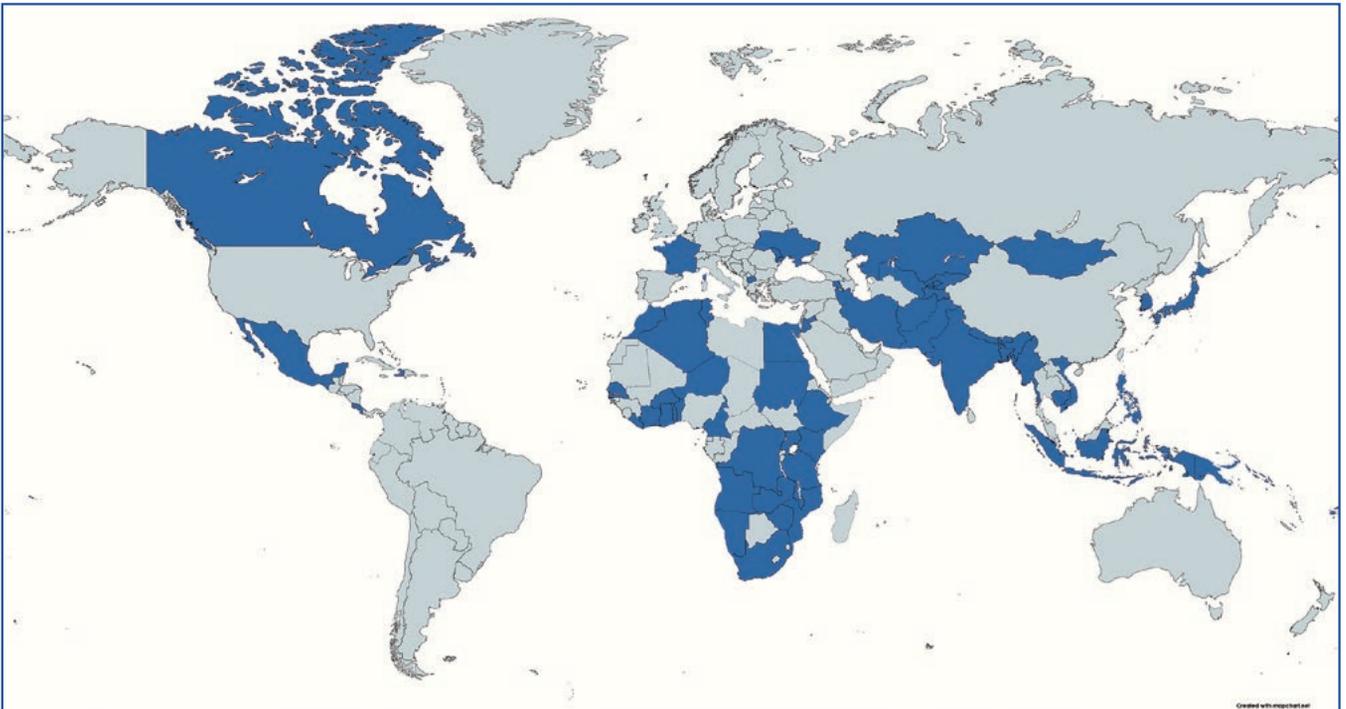


設立20周年



アンジェロセックは2021年に設立20周年を迎えました。建設用資機材の製造・販売を行う株式会社エスイーとフランスの大手コンサルタント会社アンジェロップ (INGÉROP) 社との技術協力関係のもとに設立された当社は、これまで交通インフラ分野を中心に国内外で事業を展開してきました。今後も最先端技術へのチャレンジや仏アンジェロップ社グループの特色を生かし、進化していくことを目指します。

#### 活動国・地域一覧



<https://www.ingerosec.com/>

# 唯一無二の日仏合併コンサルタント

(株)アンジェロセック 代表取締役COO

## 森田 秀明氏

明星大学理工学部を卒業後、設計事務所にて日本国内の土木設計を経験。1985年に青年海外協力隊としてケニアに派遣され、道路計画・管理業務を行う。その後、(株)建設企画コンサルタントの海外事業を経て、(株)アンジェロセックに入社。2020年より現職



## フランスで学んだ技術を日本へ

当社は、橋のケーブルなどのエンジニアリング事業を手掛ける(株)エスイー(SEC)と、フランスの大手総合建設コンサルタントであるアンジェロップ社の技術協力関係の下、2001年に設立された日仏合併の建設コンサルタントであり今年で設立20年目を迎える。

日仏合併という異色のコンサルタントが誕生するきっかけとなったのは、SECの会長森元峯夫のフランス留学だ。森元は土木先進国であるフランスに国費留学した際、日本ではまだ知られていなかったプレストレストコンクリートの定着工法であるSEEE工法を学んだ。そしてフランスの高度な技術を日本に導入するべく設立したのが、当社だった。設立当初は日本国内でフランス式のコンサルティング企業を目指し国内事業を進め、フランスから技術者を呼び、SECから若手を引き入れた。社名は「ア

ンジェロップ(INGÉROP)社と「SEC」を結合し、「アンジェロセック(INGÉROSEC)」とした。

さらに2009年、建設企画コンサルタントから海外部門を継承し、活動範囲を拡げた。実は私はもともと、建設企画コンサルタントで海外部門をまとめていたのだが、会社の倒産を受けて海外部門ごとアンジェロセックに移り、この時、建設企画コンサルタントで実施していた政府開発援助(ODA)業務も引き継ぎ、以降、ODAにも積極的に携わっていった。というのも、当時、日本企業にとってハードルが高いアフリカ仏語圏ではODAを民間投資の呼び水にしていこうとの機運が高まっていた。日本のインフラ事業における契約や規格は英国式が主流だが、当社は英国式・フランス式のどちらにも対応できる。この強みがODAでも生かせると確信したのだ。

英国式とフランス式は感覚的に

大きく異なる。例えば英国式の契約では、「施主」「施工業者」「コンサルタント」という3者関係で成り立っている。しかし、フランス式はもっと合理的だ。工事が始まったら「施主」と「施工業者」の2者になり、落札した業者に設計責任も移る。「コンサルタント」は施主の要望を実現する支援、まさにコンサルティングを行うことが役割となるので、中立性を保ちつつ、施主と同じ立場で活動する必要がある。

## 一気通貫で案件回せる人材を育成

社員は現在37人いる。当社のような中小規模のコンサルタントが目指すべきは、「大手のコンサルタントではできないことができる」に尽きる。そのためには、プロジェクトにおける0から100まで、そして「0」以前のプロジェクト発掘までもを全てカバーできる人材を育成していく必要がある。だからこそ当社は、橋なら橋、道路

なら道路と同じ分野をずっと担当するのではなく、一人のエンジニアとしてあらゆる分野を経験して、どういった経過を経てモノが出来上がっていくのかを学んでいける環境を作っている。社員は分野もポジションも、性別も年齢も関係なく、やってみたいと思ったことを自由に提案できる。

こうした一気通貫でプロジェクトを回せる能力をプロのコンサルタントの資質として求めるというのは、まさにフランス式の考え方。実際、フランス人からはよく、「お前は“シビル”エンジニアだろう、基本は一緒なのだから、橋でも道路でも、空港だって出来て当たり前ではないか」と気付かされる。

## 新たな挑戦へ

当社の現在の基盤事業は道路・橋梁などの交通インフラのコンサルティング業務だが、近年は機材調達や技術協力プロジェクトも実施している。パプアニューギニアでは無償資金協力で道路維持管理機材を調達支援した後、技術協力プロジェクトで道路整備能力強化を行うなど、当社のこれまでの知見を生かしたソフト面の支援も行っている。中小企業の海外展開支援も、新たに注力している分野だ。これはインフラ事業とは異なり、技術を現地でどう社会実装し、ビジネスにつなげていくかという、新しい視点や考え方が求められる。

当社はスタッフ皆の顔が見える利点を生かし、社員全員で情報を共有し、チームでフォローし合うことができる。そうした中では、一人では思いつかないような発想やアイデアが生まれることも多い。私はそうした環境作りを今後も整えていきたいと考えている。

今後の展望としては、これまで事業展開してきたさまざまな国・ジャンルの知見があるので、そのコンサルティングサービスを欲してくれる人に、いかに高品質な成果を提供していくかに尽きる。現在は交通インフラ分野の海外事業を中心に展開しているが、他分野や国内事業にも積極的にトライしていきたい。

## グローバルネットワークを生かす

世界43カ国で活動実績があるフランスを代表するコンサルティング企業、アンジェロップ社と技術協力関係を構築しているアンジェロセックは、その強みを生かして国際レベルの技術提案を行っている。両社は協働プロジェクトも実施しており、その一つが、無償資金協力のタンザニア・ダルエスサラーム市のニューバガモヨ道路拡幅計画だ。経済成長に伴い市内の自動車台数が急増し交通渋滞が深刻化する同市の道路（4.5km）の街路灯と交差点7カ所の信号システムを、アンジェロップ南アフリカ社と協働で設計、技術指導、設置工事を行った。現地の信号システムは高品質の南アフリカ技術を採用していることから、アフリカ圏の交通インフラ整備に高い技術力を有しているアンジェロップ南アフリカ社との協働が実現した。



## BIM/CIMをいち早く導入

2019年10月、アンジェロセック社内にBIM/CIM研究所が設立された。BIMは3次元のデジタルモデルに統合された情報を設計、施工から維持管理に至るまで、インフラ事業のプロセス全体において活用する新たなワークフローであり、建設業界におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）の最重要技術でもある。同社はいち早くBIMの活用に取り組み、タンザニアの道路計画ではドローンや地理情報システム（GIS）と連携したBIMモデルを使った設計を、ベナンの立体交差計画では3Dモデルに埋設物調査を反映し施工検討を兼ねた設計を実施した。

また国内でもBIM/CIM推進の動きに伴い、建設部材の3Dモデル作成やインフラ維持管理分野における活動を進めている。

